

北潟湖や周辺の豊かな自然を守る

北潟湖自然再生協議会では、北潟湖とその周辺地域を対象とした自然再生活動を行っています。今回は、その中から令和5年度の活動の一部を紹介します。

■ 北潟湖自然再生協議会とは？

自然再生推進法に基づいて設置する協議会で、平成30年11月24日に設立されました。「北潟湖の恵みを再発見し、未来に遺そう」をテーマに、自然再生に向けたさまざまな活動しています。

■ 問合せ 北潟湖自然再生協議会事務局
(生活環境課 環境G内)
☎ 73-8018
✉ seikatsu@city.awara.lg.jp

① 水質汚濁の原因究明

7月30日(日)に北潟湖の水にどのような成分が含まれるか調査し、水質について考えるイベントを実施しました。



③ 開田橋水門を開放して水質を調査

湖水と海水を循環させることで、湖の水質改善ができないか調査するため、試験的に開田橋水門を開放し、その前後の塩分濃度などについて調査を実施しました。

調査日

- ・ 水門開放日 6月28日(木)、29日(金)
- ・ 水質調査日 6月27日(水)、29日(金)
7月1日(土)、7日(金)



② 北潟湖畔のオオキンケイギク駆除

5月11日(木)に福井県立大学と共同してオオキンケイギク(特定外来生物)の駆除イベントを実施しました。

また、フラワーラブの会のご協力のもと、湖畔公園内でオオキンケイギクの駆除を実施いただきました。



ホームページやFacebookで情報を発信しています。ぜひ、ご覧ください。



▲ 市ホームページ



▲ Facebook

市内河川と北潟湖の水質調査

市では、市内に流れる河川および北潟湖の水質調査を実施しており、令和5年度に実施した調査の結果をお知らせします。今後は、調査結果や蓄積したデータを活用し、環境の保全に努めます。

■ 問合せ 生活環境課 環境G ☎ 73-8018

令和5年度 河川水質分析調査結果 令和5年7月27日 晴れ

調査河川	調査地点	水域類型	pH	BOD	SS	DO
			-	mg/L	mg/L	mg/L
竹田川	下新橋	B	7.3	0.8	6.0	8.6
	浦安橋	B	7.3	0.6	6.0	8.5
	高間川末端	B	8.4	0.9	7.0	12.0
	水屋橋	B	7.3	0.7	5.0	6.5
	田島川水門口	A	7.2	0.5以下	6.0	8.0
熊坂川	南部開発(株)排水口	A	7.5	1.3	2.0	6.3
	笹岡橋	A	7.6	0.5以下	2.0	8.7
権世川	治田橋	A	7.0	0.5以下	1.0	9.0
	中川橋	A	7.2	0.5以下	2.0	8.6
	中流(権世市野々区内)	A	7.2	0.5以下	1.0	8.9
宮谷川	水口橋付近	B	7.9	0.5	13.0	11.0
観音川	辻川末端	B	7.2	0.7	7.0	9.6
	細呂木橋	B	7.3	1.1	5.0	7.4
下金屋川	末端	A	7.9	0.5以下	3.0	8.2
環境基準	A	6.5以上	2以下	25以下	7.5以上	
	B	8.5以下	3以下	5以上		

河川水質分析調査の結果、一部の調査地点で溶存酸素量(DO)が環境基準値外となりましたが、全体として各測定科目で良好な河川の水質が保たれています。



詳しい情報は、市のホームページをご覧ください。

・赤字は環境基準値外の値を示す。



環境省ホームページ

令和5年度 北潟湖関係水質分析調査結果

令和5年8月7日 くもり 【前期】

調査地点	pH	COD	SS	全窒素	全リン
単位	-	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L
小牧末端	6.5	2.8	5.0	2.2	0.036
赤尾末端	6.6	2.9	7.0	2.9	0.034
沢川末端	7.3	3.2	2.0	0.28	0.042
滝川末端	7.2	3.7	2.0	0.27	0.049
辻川末端	7.3	3.7	8.0	1.1	0.051
観音川	7.0	4.0	4.0	0.74	0.046
細呂木橋	7.0	4.0	4.0	0.74	0.046
北潟湖	7.5	6.9	20.0	0.86	0.015
環境基準	6.5以上	5以下	15以下	0.6以下	0.05以下
	8.5以下(B)	(B)	(B)	(IV)	(IV)

※ BやIVは、環境省の定めた基準により振り分けられたもの。詳しくは、環境省のホームページをご覧ください。

■ 水素イオン濃度(pH)とは

水溶液の酸性、アルカリ性の度合いを表す指標。pH7のときが中性、7を超えるとアルカリ性、7未満では酸性を示す。

■ 化学的酸素要求量(COD)

湖沼や海域の汚濁の度合いを示す指標のひとつ。値が高いほど汚濁が進んでいる。

■ 浮遊物質(S S)

水中に浮遊または分散している粒子状物質の量のこと。多いほど透明度などが悪くなり景観を損ねる原因になる。

北潟湖関係水質分析調査の結果、各調査地点で全窒素や全リンの数値が環境基準を下回り、北潟湖では多くの測定科目で環境基準を満たさない結果となりました。

令和5年11月1日 晴れ 【後期】

調査地点	pH	COD	SS	全窒素	全リン
単位	-	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L
小牧末端	6.6	1.6	1.0	2.3	0.015
赤尾末端	6.8	1.5	2.0	4.1	0.010
沢川末端	7.4	2.2	1未満	0.63	0.046
滝川末端	7.2	3.0	2.0	0.74	0.027
辻川末端	7.1	2.9	4.0	2.0	0.026
観音川	7.2	4.8	4.0	1.0	0.027
細呂木橋	7.2	4.8	4.0	1.0	0.027
北潟湖	7.8	6.1	11.0	0.75	0.064
環境基準	6.5以上	5以下	15以下	0.6以下	0.05以下
	8.5以下(B)	(B)	(B)	(IV)	(IV)

■ 生物化学的酸素要求量(BOD)

河川の汚濁の度合いを示す指標のひとつ。値が高いほど汚濁が進んでいる。

■ 溶存酸素量(DO)

水中に溶解している酸素量のこと。値が低いと水生生物の窒息死原因や水質浄化が遅くなる。

■ 全窒素

水中に存在する窒素化合物の全体をいい、その総量は水質を示す指標となる。

■ 全リン

磷酸イオン、ポリ磷酸類など水中に存在するリン化合物の全体をいい、その総量は水質を示す指標となる。



環境省ホームページ